

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	中国における医療従事者-患者関係の考察 : 「人情社会」の視点から
Author(s)	蔡, 源玥
Citation	HABITUS , 25 : 67 - 79
Issue Date	2021-03-20
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/50604">10.15027/50604</a>
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050604">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050604</a>
Right	
Relation	



# 中国における医療従事者-患者関係の考察

## ——「人情社会」の視点から——

蔡 源 珩

(中国・江蘇海洋大学外国語学院 講師)

### はじめに

医療の話題となると、医療従事者-患者関係は、避けて通れないテーマの一つである。改革開放以来の 30 年間、中国は経済、社会、医療などの領域において著しい発展を遂げた。一方、医療技術の水準が上がったにもかかわらず、医療保険制度の不完全や医療資源の不均等などの原因によって、中国における医療従事者-患者関係はマスコミに「緊張状態」にあると報道されるようになって久しい。「看病難（治療を受けるのが難しい）」「看病貴（治療を受ける費用が高い）」は中国医療の「キーワード」となった。

これらの問題を背景に、患者が自分の人脈や「コネ」を駆使し、優先的に治療を受けようとする現象や、治療費以外の「謝礼」、例えば金銭やギフトカードを医療者に贈る現象が頻繁に見られるようになってしまった。なぜ「人情」医療や過剰な「謝礼」が存在しているかということ、「人情」を重視する倫理観がいまでも中国社会に大きな影響を与えているからである。この点からも、中国社会はしばしば、「人情社会」と呼ばれていることがわかる。

すでに明確な法律と医療制度が確立された今日、「人情」は今まで、一般的には正常な医療秩序の「妨げ」とされてきた。しかし、人と人のつながりを重視する「人情」が医療に与える影響には、良き面が全くないとは言えない。そこ

で、本稿は、まず「人情」と「人情社会」の定義と特徴を説明する。次に、例をあげながら、「人情」と「人情社会」が中国における医療従事者・患者関係にどのような影響をもたらしたかを考察する。最後に、近年行われた医療領域における制度の改革をいくつか紹介し、より規範化・透明化・厳格化された制度のもとで、伝統文化の一つとしての「人情」は、必ずしも「妨げ」だとは限らないことを強調したい。

## 一 「人情」と「人情社会」について

### 1.1 「人情」について

中国語の辞書『辞海』によると、「人情」とは、①人の感情、②人情の常、③人の心・思想、または世情・世論、④冠婚葬祭などの行事に行われる贈り物のやりとり・お付き合い、⑤メンツ・情誼、などを意味する<sup>1)</sup>。

①人の感情。これは、人情の基礎的な意味でもあり、人間の喜び、悲しみ、欲望などの人の感情を指す。『礼記』には、以下のような記述がある。「人情者、聖王之田也。修礼以耕之，…本仁以聚之，播楽以安之（人情は賢明な君主にとって畑であり、君主はそれを、礼を修めて耕し、…仁をもって一つにまとめ、楽しみを種のように蒔いて民を安定させなければならない）」<sup>2)</sup>。この言葉は、孔子が統治者に対して与えた、「賢明な君主は常に民の感情を安定させ、楽に暮らせることを心掛けなければならない」という意味の助言である。

②人情の常。すなわち、世間一般の常識、一般的な考え方である。『莊子・逍遙遊』には、「大有径庭，不近人情焉」とある。これは、道教の思想が高妙すぎて、世間一般の考え方とは大違いだということの意味している。

③人の心・思想、または世情・世論。古代の君主や現代の政治家は、しばしば「人情を得る」という言い方をするが、ここで、「人情」は、さらに深い意味を付与され、いわば民衆全体の思想の動き、世論、または社会全体の有り様や

動きなどを指している。

④冠婚葬祭などの行事で行われる贈り物のやりとり・お付き合い。中国の詩人杜甫は、『戏作俳谐体遣闷』で「於菟侵客恨，粳粃作人情」という詩句を通じ、故郷から離れて、地方を止むを得ず転々とする窮地に陥っていながらも、客として訪問先の主に「粳粃（古代のお菓子の土産）」を「人情礼」として贈らなければならなかった、という愁傷の気持ちを表している。このような描写から、人々がどれほど「人情」を重視していたかがわかる。

⑤メンツ・情誼。明・清の世の文学者李漁が書いた曲劇、『奈何天・計左』には、「人情留一线，日后好相见」というセリフがある。このセリフは、相手との人情を重視し、相手のメンツを考えた上で行動しなければ、後日再び会うときに、気まずくなる恐れがあるという意味であり、「人情」の重要性を強調している。さらに、中国語には「人情世故」という熟語がある。「世の中で生きていくためには、学識だけではとても足りず、どうやって一人の『人間』として周囲の人と良好な関係を保てるかも知っておかなければならない」、というような教えは、様々な文学作品において見られる。これらは、まさに「人情」文化を代表する考え方だと思われる。

## 1.2 「人情社会」について

中国では、「人情」という言葉は、長く使われてきたが、「人情社会」の概念は、比較的新しい。「人情社会」は、「知り合い社会」や「関係社会」とも呼ばれ、個人と個人の間で行われている利益のやり取りが、主にその二人の人間関係の良し悪しによって決められる社会のことを指す。この場合、実際に交換されるのは、利益だけでなく、人間の感情や義理でもあるため、「人情社会」という名が付けられたと考えられる<sup>3)</sup>。ここでの「人情」は、「人情」の五つの意味を全部含めて考えなければならない。孔子が当時君主に勧めていた「人情を畑のように耕す」という統治思想は、次第に君主から庶民に浸透し、やがて庶

民の日常生活にも影響を及ぼすようになった。結果、「人情」や、「人情」を目的とする付き合いなどは、何よりも大事なものとなった。そして、「人情」に関する言い伝えや文学作品からみると、「人情」を如何に営めばいいかは、学問、専門知識よりも重視されている場合もある。

では、なぜ「人情」がこれほど重要視されるのだろうか。その原因は、中国社会の特徴から説明できると考えられる。

中国の社会学者である費孝通は『郷土中国』において、中国社会の基盤となっているのは、「郷土性社会」と述べている。というのは、同じ土地に住む人口の変動がそれほど多くない社会のことを指す<sup>4)</sup>。というのは、数千年前より、中国の経済や社会の発展は、農業に頼るところが大きいからである。農耕業の発達には、水利、土地、気候など、人力によって簡単に動かすことのできないものが必要となるため、ある地域に住んでいる家族は、移住したり、遷居したりすることがほとんどない。人口の密度が一定の程度に達すると、都会に出稼ぎする人もいるが、その人たちは、農村部で覚えた習慣や人との付き合い方を受け継いでいる。そして、身体的、精神的に衰えた老人たちや、学校教育を受けていない壮年期の人などは、やはり生まれた土地に残ることを選択する。ゆえに、中国の農村部における人口の大きな変動は、滅多に見られない。特定の地域に住んでいる異なる家族は、同じグループ——例えば村——に属していることが多い。そのため、たとえ血縁関係がなくても、多かれ少なかれある種のつながりを持っており、親密な人間関係を維持している<sup>5)</sup>。先人が作り上げた環境の中に生まれ、その環境で生活して人と出会い、そしてその環境で亡くなっていく。このような循環が繰り返される中、互いに助け合いながら暮らすことが、最も効率のいいことだと見なされ、人間関係および社会関係の「ネットワーク」は、どんどん拡大して行く。このような親密性を持つ人同士は、互いのことを「熟人」、すなわち熟知している人と称する。日本語には、「会社にコ

ネがある」という言い方があるのと同じように、中国語には、「会社に熟人がいる」という言い方がある。人との繋がりを重視する「郷土性」は、「人情社会」が生まれた主な原因だと考えられる。

以上、「人情」および「人情社会」について紹介した。次節において、「人情」が中国における医療従事者-患者関係にどのように影響しているかを、例を挙げながら説明する。

## 二 医療従事者-患者関係における「人情」

### 2.1 「知り合い医療」について

10年ほど前の2008年、中国の医学新聞『生命時報』によって行われた調査によると、900人の調査対象において、たまに知り合いを通じて特定の病院や医者を訪ねる人は、53.3%を占めている。毎回必ず知り合いを頼りにする人は、18.2%を占めている。さらに、知り合いを頼りにしたいが、病院で働く知り合いがいないという人は、14.84%であり、そもそも知り合いを頼りにする考えを持っていない人は、わずか13.65%である。その理由は、以下の三つである。すなわち、①知り合いに頼めば、診てもらいたい医師に「直通」できるから（9.97%）、②知り合いの紹介の方が安心できるから（45.72%）、③医療への不信感（44.3%）の三つである。「医療への不信感」と答えた調査対象のうち、「知らない医師なら過度な検査を受けさせられる恐れがある」と答えたのは24.81%であり、「知らない医師の道徳性や医術への疑いがある」と答えたのは19.5%である<sup>6)</sup>。これらの理由の裏には、「看病難（治療を受けるのが難しい）」「看病貴（治療を受ける費用が高い）」が隠れていると考えられる。

これに対して、800人の医師を対象に行われた調査によると、知り合いに頼まれても特別扱いをしないと答えている医師は、半数以上であり、普段より細かく診察すると答えている医師は、およそ30%である。そして、12%ほどの医

師は、知り合いへの配慮ゆえに、自らの経験や専門家の意見に基づいて、「最も必要な」検査だけ患者に受けさせたりすると答えている。その結果、診察が粗雑になり、通常の全面検査によってならば検出されうるはずの疾患が見逃され、逆にトラブルを起こす可能性さえ考えられると指摘している医師もいる。そのほか、6%前後の医師は、知り合いに治療を任されると、プレッシャーを感じてしまい、そのせいで通常通りの診察ができなくなると答えている。また、同調査によると、調査対象となった800人の医師のうち、少なくとも週に一回は、知り合いに直接的あるいは間接的に治療を頼まれる医師は、およそ40%を占めており、知り合いに頼まれたことのない医師は、一人もいなかったという<sup>7)</sup>。

## 2.2 過剰な「謝礼」について

中国では、患者、特に入院患者や手術を受ける患者が医療者に「謝礼」を贈る現象は、珍しくない。謝礼の種類や形式は、シンプルな果物や花束から、高級レストランでの食事や多額の金銭まで、様々である。例えば、三級甲等病院である浙江大学附属寧波医院循環器内科の集計によると、2017年から2018年の間、循環器内科に属している医師らに限っても、患者から贈られた金銭やギフトカードなどの謝礼を、およそ50回以上返却している。その金額は、合わせて12万元（190万円相当）以上になる<sup>9)</sup>。同じ三級甲等病院である蕪湖市第一人民医院の集計によると、2018年の一年間、合わせて303人の医療者が、患者から贈られた総額22万元（350万円相当）以上の謝礼を返却した。中でも最も多く謝礼を贈られ、返却したのは、産婦人科の医師である<sup>10)</sup>。さらに、上述の集計結果は、あくまでも医師や看護師が一時預かってから、病院の管理者を通じて返却した金額であり、贈られた時点で断ったり、患者の治療代として使ったりした医療者もいる。また、このような現象は、決して例として挙げた二つの病院にだけ存在しているわけではない。

### 2.3 「人情」が医療従事者-患者関係に与える影響の両面性

中国における医療従事者-患者関係は、人情文化に深く影響されている。

一方では、2.1 の調査をみると、確かに実際に知り合いを通じて治療を受ける患者と、そうしようとする患者は、調査対象の 86%以上を占めているが、毎回必ず知り合いを頼りにする患者の比率は、18.2%だけである。医療機関に知り合いがいれば心強くて便利であるが、自らの健康を知り合いではない医療従事者に託すのが、むしろ一般的になっている。また、知り合いの医師に専門家を紹介してもらったりしてもなお、医療サービスの満足度が低いという患者は少なくない。実際、心強いと思い、知人を通じて治療を受けたが、治療後に感染症（リスク範囲内のものであるものの）を発症してしまい、トラブルや人間関係の悪化に至るケースも多く見られる<sup>8)</sup>。さらに、患者は、正式な手続きに則って治療を受けているわけではないゆえに、万が一医療トラブルが起きた場合は、法的手段によっては解決し難い。これらの場合、医療における「人情」の存在は、医療秩序を壊しているだけでなく、患者にも医療者にも役に立っておらず、単なる負担になってしまっていることがわかる。また、医師が実際の治療において、知り合いを特別扱いしないことや、特別扱いしても、精神的な慰め以外には、それほどメリットになっていない。それゆえ、「人情型」の医療従事者-患者関係に反感を持っている医療従事者や患者は、今日では増えつつあると考えられる。

また、2.2 で挙げた「謝礼」の中に、患者からの感謝の意が含まれていることは否定できないが、多額の「謝礼」を贈り、医療者と個人的な繋がりを保とうとするような患者もいる。このような行為は、むしろ正常な医療行為の妨げになる恐れがある。例えば、自分の病気が治らなかつたり、手術が失敗したりすると、その失敗の原因を謝礼が足りていないことや、ほかの患者が医師と個人的な関係を持っているから特別扱いを受けたことなどに求めてしまう患者が

いる。

他方では、「人情社会」そのものには「人と人の繋がりを重視する」ことや、「みんな互いに助け合う」という意味が含まれている。実際、知り合いや「謝礼」を頼りにしなければ、安心して受診できない患者の意見もある。「看病難（治療を受けるのが難しい）」「看病貴（治療を受ける費用が高い）」や、医療への不信感が原因で、知り合い医療や過剰な「謝礼」などの「不純物」が混入してしまっただけであり、これらの問題が改善されれば、「人情」は必ずしも正常な医療秩序の「妨げ」になるとは限らないと強調したい。

では、どのようにすれば「看病難（治療を受けるのが難しい）」「看病貴（治療を受ける費用が高い）」や医療への不信感を解決し「人情」を「本来の姿」——人と人の繋がりを重視し、みんな助け合うという「温かみ」のある姿——に戻すことができるだろうか。

この問題を解決するために、近年、中国は医療領域において様々な改革が行われてきた。次節においていくつかを紹介しながら、これらの改革が中国における医療従事者・患者関係にどのような影響を与えているかを説明する。

### 三 医療における制度の改革について

#### 3.1 DRGs システムの導入について

DRGs とは、Diagnosis Related Groups の略称であり、患者が患った疾病を、患者の年齢、性別、手術項目、合併症、入院期間、診断の内容、治療の結果などの要素によっていくつかのグループに分けて、医療保険機関が医療機関と交渉した上で、治療費を医療機関に支払うという医療保険システムのことを指す。DRGs 医療保険システムは、1960年代のアメリカで誕生し、後にヨーロッパなどに流入し、1980年代になると中国でも研究されるようになった<sup>11)</sup>。中国ではまだ実験段階で完全に普及していないが、DRGs システムは、病状の

複雑性と進展だけでなく、患者の需要や医療資源の消耗などを考慮に入れた支払システムであるゆえ、「医療保険機関と医療機関がともにリスクを担う」というような医療保険モデルを築き上げた。このような保険モデルの元で、医療機関が医療費の総額をコントロールするために、積極的にコストを削減し、治療費の構成を最適にしなければならない。

DRGs システムを普及させれば、「看病費（治療を受ける費用が高い）」問題はある程度緩和し、患者は「知り合い」や「謝礼」を頼りにしなくても、安心して受診できると推論できる。

### 3.2 分級診療制度

分級診療制度というのは、患者本人の意思を尊重した上で、病状の緊急度によって、受診する病院を選べるように患者を導く制度である。

中国では、公立病院は、規模やサービスの対象によって、一級、二級、三級病院に分けられており、一・二・三級病院には、さらに甲・乙・丙等の区別がある。もっともよく診られるのは一級丙等病院である。それは、特定のコミュニティに居住している人々を対象とし、予防、医療、保健、リハビリテーションなどのサービスを提供する衛生院やコミュニティ病院を主とする。二級病院は、いくつかの特定のコミュニティに居住している人々を対象とし、総合的な医療サービスを提供しながら、医学教育および医学研究もある程度行う地域病院である。三級病院は、いくつかの地域に居住している人々を対象とし、高水準かつ専門性の高い医療衛生サービスを提供しながら、高度の医学教育および医学研究も行う、地域病院以上の病院である<sup>12)</sup>。三級甲等病院は、現時点では、中国における最高の医療水準を満たす病院となっている。病院のランキング付けの基準には、「謝礼」の返却、生活面の満足度、医療者のサービス態度、インフォームドコンセントの実施状況、病室の衛生状況、医療者の技術水準など、十数個の項目がある。三級甲等病院に認定された病院は、インフラを完備し、

医療の水準や医療サービスの質も高く、有名な専門家が集まっている病院であり、日本における大学病院に近い存在となる。

さらに、分級診療制度の下で、ランキング上位の病院がコミュニティ病院とペアになり、患者の病状の進行に応じて転院させることが可能になる。その結果、患者が軽い病気で大病院へ行ったり、コミュニティ病院の医療資源が完全に利用されなかったりする現象が改善される。一方、大病院に存在している、回復期の患者やリハビリティー目的の患者が病床を「占有」するという問題がある程度なくなり、医療資源が不均等の問題が緩和される。

分級診療制度は、「看病難（治療を受けるのが難しい）」「看病貴治療を受ける費用が高い」問題を解決するための対策である。このような制度の下で、患者は「知り合い」や「謝礼」を頼りにしなくても、高水準の医療サービスを受けることができ、医療資源がより合理的に利用されるようになると考えられる。

## おわりに

今日は、日々激しく変動している時代ではあるが、医療従事者と患者との間の関係の良し悪しは、依然として、医療現場におけるコミュニケーション、医療行為の実践、および医療システムの安定ないし社会全体の安定に影響を与えている。

中国は、まだ「人情社会」の影響を受けている。しかし、医療保険の DRGs システムの導入や、コミュニティ単位の公立診療所の設立によって、医療格差を縮減されたと思われる。さらに、分級診療制度は、「郷土性」や「人情社会」を特徴とする中国社会に適しており、民衆は、身近な医療サービスを利用することによって、医療者との親密な関係を築き上げることが可能になる。難病や重症の場合、知り合いや「謝礼」によってではなく、互いに熟知している身近なコミュニティ病院を通じて上級の病院や専門医を紹介してもらえば、患者も

安心して受診できるようになると考えられる。ゆえに、より規範化・透明化・厳格化された制度、および社会の厳しい監督の下で、「人情」から「謝礼」や「知り合い医療」などの「不純物」を徐々に無くせば、人と人とのつながりを重視する「人情」は「ヒューマニティー」として、冷たい印象を持たせがちな現代医学に「温かみ」を注入できると思われる。

## 註

- 1) 夏征農・陳至立『辞海（第6版）』上海辞書出版社, 2009年, 1885頁参照.
- 2) 楊天宇『礼记释注』上海古籍出版社, 2004年, 281-282頁参照.
- 3) 馮必揚「人情社会と契約社会」『社会科学』, 2011年第9期, 2011年, 67頁参照.
- 4) 費孝通『郷土中国 生育制度』北京大学出版社, 1998年, 6頁参照.
- 5) 同上, 7-9頁参照.
- 6) 搜狐ニュース「近9成病人看病想找熟人 7成医生对此反感（知り合いを通じて診察を受けようとする患者は9割 7割の医者は反感）」<http://news.sohu.com/20080817/n258941437.shtml>, 参照, 2020年4月閲覧.
- 7) 同上.
- 8) 同上.
- 9) 浙江大学附属寧波医院「2017-2018年红包（财物）退还情况（2017-2018年度の謝礼返却状況集計）」[http://www.nbdyyy.com/art/2018/9/17/art\\_92\\_46448.html](http://www.nbdyyy.com/art/2018/9/17/art_92_46448.html), 参照, 2020年4月閲覧.
- 10) 蕪湖市第一人民医院「2018年全院退“红包”、收到锦旗、感谢信情况统计（2018年度の謝礼返却及び感謝状の集計）」<http://www.whfph.com/a/zhuanti/wuhongbaoyiyuan/2019/0528/13683.html>, 参照, 2020年4月閲覧.
- 11) 董乾、陈金彪、陈虎、房耘耘「DRGs国内发展现状及政策建议（DRGs システ

ムの国内現状および政策意見)』『中国卫生质量管理』,第 25 卷第 2 期 (総第 141 期) , 2018 年 3 月, 1-4 頁参照.

- 12) 中華人民共和国衛生部「医院分級管理办法 (病院の分級管理制度)」参照, 1989 年 11 月 29 日公表.

## **Research on medical professional–patient relationships in China from the acquaintance society perspective**

Yuanyue Cai

(Lecturer, School of Foreign Languages, Jiangsu Ocean University)

In the 30 years since its reform and opening-up, China has undergone significant economic, social, and medical development. However, despite the advances in medical technology, kan-bing-nan (difficulties in receiving treatment) and kan-bing-gui (high cost of treatment) have become buzzwords in Chinese medical care. As a result, many have made full use of their personal connections to receive preferential treatment and other have received special treatment from medical workers through “gifts” like money and gift cards. In this paper, we first define and describe “acquaintance” and “acquaintance society.” Next, we consider how these have affected medical professional–patient relations in China through examples. Finally, I introduce some reforms to the medical system that have been carried out in recent years, emphasizing that an acquaintance society, which is traditional cultural form, is not necessarily a hindrance in a medical system that has become stricter, more adaptable, and more transparent.